

苫小牧市地域公共交通活性化協議会

平成20年9月22日設置



概要

苫小牧市では、市営バスが市民生活を支える公共交通機関として都市基盤の一役を担ってきたが、交通手段の変化などによりバス利用者は年々減少し、市財政を圧迫する状況から平成24年度に経営を民間に移譲することとなっている。民間移譲後も市民の交通手段として持続していく必要があることから、快適なバス待ち環境の確保、市内各公共交通機関の接続連携や中心市街地と郊外のアクセス向上などによる利便性の高い公共交通体系の確立等に向けた調査検討を実施する。

地域公共交通の現況

- ・JR室蘭本線、千歳線、日高本線
(苫小牧、錦岡、糸井、青葉、沼ノ端、勇払、植苗駅)
- ・苫小牧市営バス(市内23路線)
- ・道南バス(株)(都市間6路線)
- ・北海道中央バス(株)(都市間1路線)
- ・あつまバス(株)(都市間2路線)

地域公共交通の課題

- ・市営バスの民間移譲
- ・郊外地域の需要に応じた新たな公共交通手段の確保

調査の主な内容

- ・現況交通実態調査
- ・利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)
- ・デマンドバス、コミュニティバス導入の検討

策定する地域公共交通総合連携計画の構想(予定)

- ・デマンドバス、コミュニティバスの導入
- ・快適なバス待ち環境の確保
- ・市内各公共交通機関の接続改善
- ・中心市街地と郊外地とのアクセス向上



苫小牧市地域公共交通活性化協議会 調査事業の取組状況

開催状況は平成22年度中のもの(開催予定を含む)

協議会開催状況

4回開催

分科会等開催状況

分科会 :4回開催

主な調査の実施内容

現況交通実態調査

- ・各種統計資料等により地域別人口、高齢者人口や市営バス等の運行状況等の調査を実施 (H22.7月～9月)
- ・バス利用者が少ない4路線沿線の施設を対象に、施設の利用者数や利用交通手段、施設滞在時間等の調査を実施 (H22.10.29 調査対象施設 :病院・店舗各2箇所)

利用者ニーズ把握調査(アンケート調査)

- ・バス利用者が少ない4路線沿線300m範囲内の住民を対象に、現状のバス利用状況や不満、コミュニティバスやデマンド交通に対するニーズ等の把握を目的としたアンケート調査を実施 (H22.10.28～10.30 配布:9,480票 回収率:約25%)

予定している主な連携計画の内容

デマンド型コミュニティバスの導入(実施主体:苫小牧市、道南バス(株)、実施時期:H23.10月～)

- ・バス利用者が少ない地域等において、運行の効率化を図り、適確に地域の需要に応える運行とするため、デマンド型コミュニティバスを導入(H24の本格運行に向け、H23に実証運行を実施)

快速バスの導入(実施主体:苫小牧市、道南バス(株)、実施時期:H24.10月～)

- ・利用者ニーズを踏まえた利便性向上のため、市郊外部から市中心市街地や病院、買物施設等に直行する快速バスを導入(H25の本格運行に向け、H24に実証運行を実施)

中心部周遊バス(循環バス)の導入(実施主体:苫小牧市、道南バス(株)、実施時期:H24.10月～)

- ・「まちなか」における生活交通の確保及び市民や来訪者の回遊性の向上による中心市街地の活性化を目的とした周遊バス(循環バス)を導入

JRとバスの乗継改善(実施主体:苫小牧市、北海道旅客鉄道(株)、道南バス(株)、実施時期:H24～)

- ・JRとバスの乗り継ぎに配慮したバスダイヤ・路線に見直し、利便性向上によるバス利用の機会拡大を図る

利用促進に向けた取組の実施(実施主体:苫小牧市、道南バス(株)、実施時期:H23～)

- ・わかりやすいバスマップ・時刻表の作成・配布

自己評価のポイント

利用実態調査、アンケート調査等により必要な調査を行うとともに、法定協議会において分科会の開催も行いながら合意形成を図っている。

二次評価の方向

次に掲げる点についてアドバイスする。

- ・デマンド型コミュニティバス、快速バス及び中心部周遊バス(循環バス)等の新たな運行形態を導入するに当たっては、H24年度に市営バスの民間移譲が予定されていることを踏まえ、民間移譲後の路線バスとの役割分担に留意しつつ、引き続き、具体的なサービス内容について検討されたい。